

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」

大道芸アジア月報 2020 年 3 月

vol. 31, no. 3

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidogeij.jp/>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/>■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★今月の大道芸公演

△演の祭典 2020 <https://ameblo.jp/asakusapp2/> ○あさくさ劇亭 および 隅田公園内・カフェW.E

●3月7（土）11：00～17：00 カフェW.Eにて 「和菓子練り切りワークショップ」 講師・彦一団子 ¥1200

19：00 開演 「おとちゃん NIGHT」：おとちゃん、三雲いおり、ラテアートパフォーマー☆ファイター☆、佐藤達、
¥2500+1ドリンクオーダー

●3月8（日）11：00～17：00 カフェW.Eにて 「スプレーアートワークショップ」 講師・☆ファイター☆ ¥3500

19：00 開演 「フレッシュホッピングパーティ」：MIHARU、カイ、たろりん、マイン、リオ
¥2000+1ドリンクオーダー

●3月6（金）・7（土）・8（日）あさくさ劇亭にて

6日（金）18：00より：ソらとたかくわと晴れ女／20：00より：山田と進藤のトークショーvol.1

7日（土）12：00より：メランコリー鈴木・ぱふおーまーまめ／14：00より：即興劇団インプロモーティブ

／16：00より：ソらとたかくわと晴れ女／18：00より：ゴールドタイガース／20：00より：てのひら

8日（日）12：00より：すがぼん流パントマイム Mr ふじやん／14：00より：笑鶴家天太と SUKE3 と SYU

／16：00より：サクノキ／18：00より：ゴールドタイガース／20：00より：てのひら

△STREET ART PLEX KUMAMOTO 大道芸 2020 <http://artplex.jp/information/daidogeij/> ○熊本市中心市街地一帯

●3月14（土）18：30～21：35 /3月15（日）12：30～16：30

miwa、Mr.BUNBUN、Nao、Okk、RAVART、REO・King・三獅郎、Rintaro、sho_maa、TEN-SHO、The ちゃぶ台、

ちんどん鈴乃家、ふくろう、サムくんとメロンちゃん、シルヴプレ、チムチムサービス、バーバラ村田、加納真実、紙芝居屋ぐれっち、
大道芸大好きおじさん△第8回モリコロパーク大道芸フェスティバル 2020FB <http://mrkrddg.com/> ○愛・地球博記念公園モリコロパーク

●3月20（金）・21（土）・22（日）

出演：アストロノーツ、AYACHIGAL、綾乃テン、フォトジェニック ドールエトランゼ、Entertainer Hi2、オマールえび、オーパー
トーン、Kanauknot、くす田くす博、clown レオ、こ～すけ、ココナッツ山本、サンキュー手塚、ジャグリングドラゴンヒョウガ、ジ
ョー次、ゼロコ、大道芸人ジーニー、大道芸人すごろく、Daggle KOMEI、ダンディふくちゃん、CHIKI、つくもん、中村知美、なご
やエアリアルラボ、にじいろペイントラボ、PerForMerZEN、バルーンパフォーマーASUKA、バルーンパフォーマー哲、風船おじさん
てりやき、フォーク曲げアーティスト Ryo、MAGICIAN HIROSI、松本かなこ、めぐみ梨華、モノクロパフォーマーKai、油井ジョー
ジワンマンバンド、Yo-YoEntertainer TOMMY、Rei Iwakura、リユースー△第13回うつのみや大道芸フェスティバル 2020 <https://www.utsunomiyadaidougei.com/> ○宇都宮市 オリオン通りイベント広場ほか

●3月21（土）・22（日）

荒木巴、加納真実、セ三味ストリート、Funny Bones、柳貴起助、風船海賊クリーネ、ta2、小さなサーカス団たらったらった、バル
ーンパフォーマーさくら、リフティングパフォーマンス MESSE、加藤みきお&ひろみち、金鳩団、suke3&syu、スマイルパフォーマーQ
ちゃん、ジェンガ金次郎、パフォーマーまめ、Bubble Artist IkkI、山本光洋、りずむらいす、渡辺翼△新猿楽記～cirque de kyoto～ 古典文学×伝統芸能×新技術 <https://kyoto-steam.com/program/event08/>

○ロームシアター京都メインホール

●3月29（日）13：00 /17：00

構成・演出：高橋浩、芸術監修・出演：小笠原匡、サーカス監修：QUMIKO

出演：小笠原匡、小笠原弘晃、目黒陽介、クロワッサンサーカス（清水ヒサヲ、とつつ、花火、ケンタ、吉川健斗）、hachiro、黒谷都、
上加茂やすらい踊り保存会、ほか

一般¥1000、中学生以下無料（全席指定、前売り、当日とも）

申込み：ロームシアター京都チケットセンター 075-746-3201

△志免祭～国際コメディシアターフェスティバル 2020 <https://h732.net/simesai/> ○福岡県志免町志免

●4月10(金)前夜祭、11(土)・12(日)

前夜祭(h732シアター)「炭鉱コメディナイト2020」=10(金)19:30より

シアタープログラム

清水宏=11(土)14:00、12(日)11:45&15:00 / 小倉=11(土)11:45&15:00、12(日)14:00

/ 非・売れ線系ヴィーナス=11(土)12:45、12(日)12:45 / 望ノ社=11(土)16:00、12(日)16:00

/ どん・べんた=11(土)14:45、12(日)14:45 / 志免の祭りしめ縄の縁=11(土)13:00

/ シメンタイ・シアター=12(日)13:00

大道芸プログラム

カナールペキノワ、ダメじゃん小出、三雲いおり、ユキンコアキラ、彦一団子、めりこ、芸人まこと、GABEZ、YAYA、加藤みきお、加納真実、黒龍武術団、サム&メロンちゃん、なるせ女剣劇団、CHISHA、

△多治見大道芸見本市 <https://tajimidaidougei.jimdoofree.com/> ○多治見市虎溪用水広場(JR多治見駅北側)

●4月12(土)・13(日)

サンキュー手塚、Daggle KOMEI、Clown Bomb、油井ジョージワンマンバンド、さくら組、TOMMY&紙磨呂、アストロノーツ Mark2、猫のアーサー、アートパフォーマー☆ファイター☆、スピニングマスターズ オーバートーン、Rei Iwakura、オマールえび、くす田くす博、健山、文房具エンターティナーKay、komatan、スマイルパフォーマーQちゃん、大道芸人ジーニー

△ヨコハマ大道芸 2020 <http://daidougei.jp/yokohama2020> ○横浜市みなとみらい地区、伊勢佐木町、石川町駅周辺

●4月18(土)・19(日)

△世界無形文化遺産フェスティバル 2020 <https://ttf-koubo.jp/project/jfpaa/> ○都立日比谷公園大音楽堂・小音楽堂・噴水広場ほか

●4月18(土)・19(日)

ガヨの伝統舞踊 サマン(インドネシア)、セト・レーロの多声歌唱(エストニア)、エチオピアの民族芸能(エチオピア)、トンガの歌と踊り ラカラカ(トンガ)、東ブータンのヤクの踊り(ブータン)、ガリフナ民族の歌と踊り(ホンジュラス)、仰山流笹崎鹿踊り(岩手県)、秋保の田植え踊り(宮城県)、じゃんがら念仏踊り(福島県)、和太鼓(東京都)

申込み: webサイトの「申込みフォーム」より。3月16日締切

往復はがきに、氏名・電話番号・希望日・人数(2名まで)を明記し、〒106-0032 港区六本木4-3-6-206 世界無形文化遺産フェスティバル2020事務局あてに送付。3月16日締切

△第45回野毛大道芸 <http://nogedaidougei.com/> ○横浜市野毛商店街

●4月25(土)・26(日)

あめ細工吉原、ヴィザン林、エスコラヂサンバサウーヂ、片腕のマジシャン HAKU、桔梗ブラザーズ、空転軌道、クラウンジュカ、ケチャップリンたび彦、パフォーマーしほちゃん、シルヴブレ、セイムセイム、SEOPPI、タカパーチ、知念大地、中国雑技芸術団、toRmansion、道化師 LOTO、東邦新悟、日本民間伝承技術しんこ細工、猫のアーサー、Performer SYO!、日ノ出サンデーズ、富士丸(旧桜小路富士丸): 伴奏服部こうじ、ヘルシー松田 with みま、ボンバンダー、フェイスペインター☆ミホウ、紫ベビードール、めりこ、望月ゆうさく、山本光洋、油井ジョージワンマンバンド、吉川健斗

△第12回高円寺びっくり大道芸 2020 <http://www.koenji-daidougei.com/2019/> ○高円寺駅周辺

●4月25(土)・26(日)

△千住大道芸 ○北千住

●4月25(土)・26(日)

オリーブまち子、キクチマコト、白鳥兄弟、ポーターたかつき、ぼにあい工房、ユーコとカレン、レンカ、akari、ソらと晴れ女、フェーチャリズム(パーツィンバ・ピー・ポーターたかつき)、柚希かおり、AXEL 翼、Stick Artist KIA、大道芸人ゆうた、大道芸人ゆきた、Performer SYUN、ぱふおーまーまめ、金魚姫、クラウ、グレイスト、沢村誠一、しろみときみ、茶運び人形 鈴、ファンタスティックドール、Performer じゅんいち、はまだしんたろう、舞夢男爵、生人形雪狐、にこにこぼ〜や、バルーンパフォーマー☆キャサリン&海賊タロウ、KIRIGAMIST 千陽、ちかまる、長谷川あひる、願羽マサル with 願龍団、池崎浩士、七瀬カオリ

若林正の

食って極楽

怖いもの見たさの激安ランチ

・・・蕨西ロバイキング「くいっく」

どうにもネタが無く、とりあえず自転車で近所をうろろしていると、駅前で「ランチ 500 円食べ放題!」の看板を発見。激安バイキング飲み屋だ。うむ、ここがあったか!! 友人と夜の飲み屋タイムに入った。以前、書いたこともある。味に期待はできないけど、話の種になるか、と階段を上る。中は数年前と全く変わらず。500 円+消費税 50 円を先払い。

入口脇にジャーや保温鍋が並び、その隣に料理があるが、少ねー。見れば1時前というのに客は二人。やはり安かろう不味かろうじゃ流行らないよなあ... と思いつつよく見ると、手前の冷蔵ケースにサラダや小鉢がギッシリ入り、目につきにくい奥にも小皿がある。意外にバラエティがありそう、と小ぶりの茶碗に飯をよそい、汁代わりにカレーを碗に注ぐ。さてオカズは、王道の唐揚げとコロケ、エビフライに焼きそばを一皿に盛り、冷奴、おひたし、味付け卵とワカメの酢の物で栄養バランスを考え、肉じゃがとおでんのガンモで脇を固める。

食べ始めると、意外や意外、唐揚げが、んまい。コロケなどは冷凍の業務用だけど、この唐揚げは手作りみたい。焼きそばは時間が経っているからかガビガビに乾いており、予想通り過ぎて笑ってしまった。ご飯は、これも柔らかい炊き加減ながら美味。カレーは具も無くてホント汁代わりに良し。でも揚げ物のつけてソース少しかければ立派なカレーライスになりそうかな。とかなんとか喰い散らかして、サービスのコーヒーまで付けばかなり満足してしまった。

○又時々来てみようかな度=3 ワカ

田遊びと春駒

上島敏昭

◆田遊びのパレード

2月13日、板橋区の赤塚に田遊びを見に行った。板橋の田遊びは、東京で一番有名な民俗芸能だが、恥ずかしながら、私は初めての見学である。すぐ近くの同区徳丸地区にもやはり田遊びがあり、2月11日に行われる。こちらは何度か見ているが、赤塚のはパスしていた。なにしろ寒い。しかも夜の祭りで、駅から遠いので、まあいいかとズボラを決め込んでいたのだ。

しかし今年は想像以上の暖冬。思い切って出かけてみた。夜7時からとホームページにはあり、6時半ぐらいには数十人の見物人が諏訪神社の境内に集まっていた。やがて7時を過ぎたが、なかなかはじまらない。地元の訛知りと思われる老人が「いま(社務所の)中で歌をうたったりしてる」などと大きな声で見物人に説明している。耳をダンボにしてその解説を横から聞いていると、赤塚と徳丸との大きな違いは、パレードがあることで、子どもたちが竹で道を叩きながら先導するという。知らなかった。

そうこうするうちに神官や麻の衣装を着た男たちが社務所から出てきて儀式がはじまる。男たちが神輿を担ぐとパレードがはじまった。天狗、三角帽をかぶった幼児、獅子などが神輿とともに、数十人が行列を組んで大太鼓と笛のお囃子と一緒に歩きだした。見物人もだらだらとそれについていく。

鳥居を出て公道を数十メートル進むと広場があり、そこが目的地だった。小学校の校庭ぐらい。この祭りのための広場と思われる。ここで行事がはじまった。人垣の後ろから見学しているうちに、とつぜん、アレッ。思わず声が出た。そっくりだ。一之瀬高橋の春駒とよく似ている。田遊びと春駒。二つを並べて考えたことなどなかったが、何かつながりがあるのか。これは調べてみなけりやなるまい。

◆パレード先の行事

板橋区赤塚神社の田遊びは同区徳丸北野神社の田遊びとともに国指定無形民俗文化財に指定されている、東京都を代表する民俗芸能である。ちなみに同区赤塚氷川神社と練馬区下練馬氷川神社にも田遊びが伝承されているようだ。

田遊びは全国的に分布する民俗芸能で、「新春や田植え時期に、稲作の理想的な耕作過程を模擬的に演ずる予祝行事。御田・春田打・お田植祭などとも呼ぶ」(『民俗小事典 神事と芸能』)。同書によれば、長い詞章を唱えつつ象徴的な模擬的動作を演じる、東海から関東に多い系統と、翁面を付けた田主と農民との即興的な会話で狂言風に演じる、近畿地方に多い系統があり、板橋の徳丸・赤塚のものは前者の代表事例としてあげられている。

赤塚の田遊びのパレード先での行事は次のようなものであった。

一方に鉾、三角帽の幼児、獅子などが一団となっており、その向かい側に太鼓を先頭にしたい一団がいて、両者を囲んで人垣ができていく。鉾が前に進んで太鼓に向かっていくと、太鼓はそれを妨げるべく、ドドン、ドドドンと叩き、まわりの人たちも「ヨウヨウ」などと声を出して囃す。鉾が退くと、次は幼児を抱えた男が前に出て、鉾と同様の次第となり、それから獅子でも同じことを繰り返す。



このパレードと広場での雰囲気、とくに幼児を抱えて前進する姿が一之瀬高橋の春駒と似ている。よく見ると、幼児は竹のようなもので作られた枠に入られていて、それも気になった。

◆一之瀬高橋の春駒

山梨県甲州市の一之瀬高橋の春駒も国指定無形民俗文化財で、かつては1月14日におこなわれていた。山あいの集落のため後継者が途絶え、しばらく中断していたが、県立博物館が保存に乗り出し、現在はJR塩山駅近くの保存家屋(甘草屋敷)および近くの広場を会場に、1月の行事として復元されて行われている。昨年7月には国立劇場の民俗芸能公演にも出演した。

この「春駒」は民家と広場でおこなう行事全体の名称で、その中心が「ウマオドリ」である。これは腰に馬型を付けた「ウマ」役と、そのウマを御す＝さばく「露払い」役のコンビで踊る。この腰付け馬は佐渡の男春駒に近い。ちなみに佐渡には手持ち駒型の女春駒もあり、こちらの春駒のほうが一般的である。

さて、一之瀬高橋の春駒行事では、まず民家でウマオドリが行われ、それから行列を組んで広場(道祖神場)に向かい、そこで「弁慶」および「シャチ祝い」と称する儀式とともに「ウマオドリ」が行われる。



この行列と道祖神場で行われる一連のパフォーマンスは次のようなものである。

行列には「家内安全」「猿田彦」と書いた角灯籠を掲げた万灯を押し立てて、ウマ、露払いほか全員が、太鼓・笛のお囃子で民家から道祖神場へ向かう。道祖神場ではドンド焼きが行われており、その炎の前で、各儀式が行われる。シャチ祝いは、寄進を一人ひとり読み上げて、「祝つとくんたてよー」と鳴り物で盛り上げ、「ありがとうごいしたよー」と皆で礼を述べる儀式。弁慶は、祝儀品や神札の入った弁当箱ぐらいの箱のことで、祭主が持つ。まわりの人たちは祭主を抱え上げて、木遣り歌にあわせて前進して、弁慶を頭主に渡そうとするが、それを阻止しようとする者たちもいて、両者がせめぎあい、最終的に頭主に弁慶が渡される儀式。ウマオドリはその喧噪のなかで行われる。ウマが暴れるのを露払いが鎮めるようにさばく。〈乞食が殿さまになって馬に乗る。若い馬だからバクレル(暴れる)。これを馬方(露払い)がうまくさばく〉(国立劇場公演パンフレット)のだという。

この万灯をたててのパレード、目的地での儀式の雰囲気。とくにウマオドリと幼児の前進・後退が、田遊びと良く似ているように思えたのである。

◆田遊びのパレードと「駒」

まずパレードについて考えてみたい。赤塚の田遊びについてののもっとも古い記録である古河古松軒『四神地名録』(寛政6=1774)を見ると、餅で鋤や牛の鞍に模した物などを作ること、牛の顔を描いた板のお面をつけて牛の格好をして代かきのマイムをすること、猿田彦の面を付けた太郎次と婦人の面を付けたヤス女が踊ったりするなど、現在でもおこなわれるパフォーマンスが書いてある。

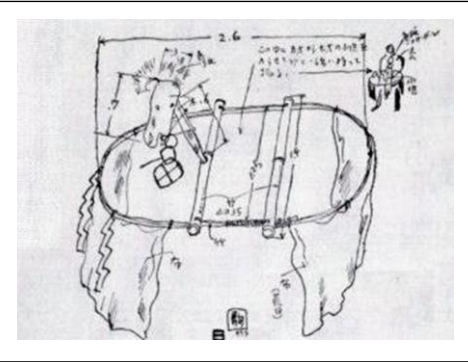
しかしパレードについて、記載はない。斎藤月岑『江戸名所図会』(天保 7=1836)には次のようにある。

〈十羅刹女の宮 同所(赤塚明神祠)北の方にあり、真言宗常福寺別当たり。田遊び祭り(毎歳正月十三日、この地の農民当社に詣して後、常福寺に集会し、夜に至りて興行す。その式に曰く、この祭事は、初め餅を搗くことおよそ三斗あまりなり。(後略))〉

つまり、現在の諏訪神社はかつて神仏習合の「十羅刹女の宮」であり、その別当寺である常福寺(明治期に廃寺)との間で田遊びは行われていた。両者のあいだをパレードしたかどうか、やはり記載はない。言及がないのだから、なかったと考えるべきかもしれない。

では幼児を抱えて前進するパフォーマンスはどうか。これも両史料には出てこない。しかし、このとき使用する枠を、「駒」と呼ぶことが『文化財シリーズ 94 集 いたばしの田遊び』に出ている。

「武蔵赤塚村諏訪神社田遊び祭りの記録」(『民俗芸術』第2巻9号、昭和4年)と題する報告書には、その測定図が載っている。



これを見ると、枠だけでなく、馬の頭までついていて、馬の作り物であることがよくわかる。とうぜん一之瀬高橋のウマオドリの道具と非常に似ている。

この報告書に折口信夫が「田遊び祭りの概念」という論文を寄せている。この論文で、田遊びの中心となっているのは、翁と媼の所作であると述べ、性的な連想を誘うその行為を「感染所作(かまけわざ)」と称している。先に記したように、猿田彦面を付けた太郎次と婦人面を付けたヤス女が出て踊りをおどるが、そのなかで二人はきつく抱擁する。また「よねぼ」という藁で作られた奇妙な作り物も登場する。この「よねぼ」は生殖器に手足をつけたキャラクターなのだという。このように生殖行為を演じることで、田を孕ませて、本年の豊作・豊穰を強く祈ることこそが、赤塚の田遊びのテーマだということである。

◆十羅刹女の祠

ところでこの報告書は、同年に國學院大學で行われた実演をもとにまとめられたもので、行列と広場での行事も記されている。広場には富士塚と浅間神社および、明治以前の十羅刹女の祠も祀られている。広場はその神前なのだ。この実演では、行列も浅間神社・十羅刹女祠前での行事も行われた。折口は獅子と駒について、次のように述べている。

〈此の二者(獅子と駒)も、元は農村を護るものであったのだが、今では両者ともが悪いもの、妨げをするものと解釈されて、降伏させる形になって居るのが多い。(中略)駒は獅子に対する狛犬である。(中略)獅子と共に、降伏するのか、悪魔祓いなのか、訣がわからぬものになってしまう。〉折口はどうやら、田遊びの本質とは別の要素と考えたらしい。

一方、『文化財シリーズ 94 集 いたばしの田遊び』では広場(神前)での一連の行事を「花籠」と記している。花籠とは、竿の先に灯籠を付け「五穀成就」「村内安全」などと書き、さらにその上に五色の紙を入れた籠と飾りの紙をつけたタテモノで、これを行列の先頭に立てる。道中、花籠の飾り紙が揺れる様子は一之瀬高橋の万灯にも似ている。広場の行事では、〈太鼓にあわせて花籠をふり、破魔矢や子どもが乗る駒などが突進し厄を落とす。花籠から降り舞落ちる五色の紙片は、受胎と出生を表すという〉(同書)と記し、その行事の意味を「厄落とし」と「受胎と出生」としている。そのように地元では伝承されてきたのだろう。

私は十羅刹女の宮というのが気になる。辞書には「インドの仏神。鬼子母神とともに法華経の諸天蕃神」とある。また「普賢菩薩に常侍する十人の羅刹女をいう。食人鬼、速疾鬼などの類にして八部衆の一に居る」と記したものもあるが、どちらもどのような信仰なのかよくわからない。

もっと通俗的な信仰があったのではないか。というのは、警女の万歳唄に十羅刹が登場するのである。

警女万歳唄の「柱立て」。〈一本の柱をば、一仏薬師、泉の金銀、つかえど尽せぬお守りなり。二本の柱をば、仁王権現、錦の巻物、着れど尽せぬお守りなり〉とさまざまな神仏の名をあげてその守護するところを述べるなか、十本目に十羅刹が出てくる。〈十本の柱をば、十羅刹が十分、コダネを授けたまいける〉とあり、コダネを授ける神さまなのだ。

ここでいうコダネが「子種」なのか「蚕種」なのかは微妙だが、いずれにしてもコダネを授ける神への願いは、かまけわざの理論に当てはめれば、豊作・豊穰の祈りである。十羅刹女とコダネの関係については、もっと多くの傍証が必要だが、仮にその関係が深いものだとすれば、「かまけわざ」をテーマとする田遊びが、明治以前は十羅刹女の宮で行われていたのは、たまたまとか、偶然などではない。また、明治以降、淫祠邪教のごとく扱われて、神社境内から締め出された後も、村人がわざわざ行列を組んでその祠の前に行き、行事を行ってきたのも、尤もな理由があったのである。

その十羅刹女の宮の前で、前進・後退のパフォーマンスを演じる「駒」もやはり性的なシンボルと考えるのが自然であろう。とすれば、幼児が扮するにはそぐわないが、ウマは巨根のシンボルと考えたほうが、「受胎と出生」という意味付けには似あうのではなからうか。

◆春駒と道祖神

さて、そう考えると、一之瀬高橋の春駒はどうなのだろう。一之瀬高橋の春駒は「ウマオドリ」の芸能だけではなく、集落の家々と道祖神場での祭り全体をいう。むしろ道祖神祭りに「ウマオドリ」が登場するというべきものである。道祖神祭りはドンド焼きとか左義長とも呼ばれる火祭りであり、全国で行われる。山梨県でも盛んで、たとえば山梨市塩平の道祖神祭りはドンド焼きを背景に獅子舞が演じられる。甲州市藤木では太鼓乗りと称してやはりドンド焼きをバックに太鼓の上で歌舞伎の名場面が演じられる。一之瀬高橋では獅子舞や太鼓乗りではなく「ウマオドリ」が踊られるのだ。

つまり一之瀬高橋の春駒では、道祖神祭りと「ウマオドリ」の関係を考えなければならない。

道祖神は路傍の神であり、子孫繁盛の神であり、古い信仰では石でつくられた男根である。十羅刹女が女性神であったのに対し、こちらは男性ではあるが、性神という性質は同様である。それを前にしてウマが踊る。それが豊作・豊穰の予祝と考えるならば、やはりウマは男根、もしくは生殖強い能力のシンボルと考えるべきだろう。

春駒は蚕の予祝だと、漠然といわれてきた。花柳界でもてはやされたとも聞いた。その意味を田遊びの「駒」を触媒として考えると、あるいはかなり性的な意味が隠されているのかもしれない。